

前回大会を終えて

市長 本日はお忙しい中お時間をいただきありがとうございます。

まずは、宮城県で開催された前回の全国和牛能力共進会(以下「全共」)において農林水産大臣賞を受賞されたわけですが、受賞の発表があった際はどのようなお気持ちでしたか。

薬師さん 全共の場に参加することに喜びと不安を感じていたので、農林水産大臣賞受賞の結果を聞いたときは、驚きとうれしさ、また、それ以上に安堵の気持ちが大きかったです。個人というより、鹿児島島の代表として結果を残すことができ、肩の

荷が下りて様々な感情が入り混じっていました。

市長 やはり、日本一の畜産県の代表として相当なプレッシャーがあったと思います。

素晴らしい結果を受けて、畜産関係者も大変盛り上がり、薬師さんの元にも数々の視察が訪れ、牛づくりへの期待が高まったと思いますが、その後の環境の変化はいかがでしたか。

薬師さん 畜産に関係のない人からも声を掛けてもらえるようになりました。また、より良い肉を作ることに向けて気持ちを高める契機となりましたし、肝属、鹿屋地区を「畜産基地」にするために、さらに盛り上げていかないといけないという気持ちになりました。

畜産を始めたきっかけ

市長 農林水産大臣賞を受賞したことにより、様々な重責の中で、経営

新春



鹿児島市長

中西 茂

shigeru nakanishi

農林水産大臣賞受賞者

薬師 成人

narihito yakushi

対談

に取り組まれていると思いますが、そもそも薬師さんが畜産経営を志したきっかけをお話しいただけますか。

薬師さん 父が畜産をしていたため、物心ついたときから畜産が身近にある中で育ってきました。小さいときから父の牛に対する取り組みを見て、毎日の仕事の大変さ、厳しさを感じていましたが、自然と父と同じことをしていきたいと思うようになったので、今の自分の取り組みは父の存在が一番大きかったと思います。

市長 小さいころから牛舎に入ってお手伝いをされていたのですか。

薬師さん 学校に行く前と学校から帰った後に牛への餌やりなどをしていましたし、土日も友達と遊ぶよりも父の手伝いを優先していました。自然と牛が好きになり、自分はこれをやらないといけないんだという気持ちになっていきました。

市長 もともと動物は好きだったのですか。それとも、そのような環境の中で好きになっていかれたのですか。

薬師さん 牛に限らず、もともと動物は好きでした。自然相手、生き物相手というものに興味があったのかなと思います。

肉用牛肥育の秘訣

市長 皆さんが聞きたいことだと思うのですが、素晴らしい肉用牛を育てるうえでの秘訣はありますか。ご自身の経営の特長として、心掛けていることがあれば教えてください。

薬師さん 素牛の導入の際に、自分のやり方に合った素牛を買うことは大前提としてありますが、餌に関しても、どの農家さんもそれぞれの材料や配合のやり方があり、マル秘を持っていてという点では皆さん変わらない状況だと思います。ただ、毎日の牛の観察や細かいことを徹底して行うことは意識しています。また、ここ数年の取り組みとして自然由来の材料を牛に与えるようになりまし

※素牛…肥育開始前の牛

全国和牛能力共進会とは

5年に1度開催され「和牛のオリンピック」と呼ばれる大会。和牛の能力と斉一性の向上を目指し、改良の成果やその優秀性を競います。

部	区分	種目	頭数	生後月齢
種牛	1区	若雄	2	15～23か月齢未満
	2区	若雌の1	2	14～17か月齢未満
	3区	若雌の2	2	17～20か月齢未満
	4区	繁殖雌牛群	3	3産以上、分娩間隔400日以内の3頭1組
	5区	高等登録群	3	直系3代(母牛、娘牛、孫娘牛)の3頭1組
	6区	総合評価群	4	17～24か月齢未満
肉牛	7区	総合評価群	3	24か月齢未満
	8区	脂肪の質評価群	3	24か月齢未満
	8区	去勢肥育牛	1	24か月齢未満
農業高校等	特別区	農業高校等	1	14～20か月齢未満